

# 田川市立病院 病院事業管理者が交代します

田川市立病院では、平成22年度から公営企業として再スタートし、医療の専門家として招聘した経営者「病院事業管理者」をトップとして市立病院を運営してきました。人事など大半の権限を病院事業管理者が持つことで、病院独自の経営判断により改革を進めてきました。平成31年4月1日付けで田川市病院事業管理者が交代しましたので、市民のみなさまに退任と就任のあいさつを申し上げます。



## 退任のあいさつ

さいとう たかお  
齋藤 貴生

本年3月31日をもって、病院事業管理者の職を退くことになりました。平成22年度から平成30年度までの9年間、大過なく勤めさせていただきましたことに感謝申し上げます。

私が託されました仕事は、経営破たん陥った田川市立病院の再生という最も困難な事業でした。私がこの難事業をお引き受けしたのは、当時の田川市長から、自宅にまでお見えになっての直接のご要請を受けたこと、また、病院の再生においても経営学理論の導入が有効であろうと思ったことによります。前任地の大分県立病院、佐賀県立病院好生館において、独学で学んだ経営学理論の導

入が大きな力を発揮したことを経験していたからです。

田川市立病院での取り組みは、不良債務の解消、医師の確保に始まり、医療・経営の基本からの改革、さらに、質の高い医療と健全経営の実現、病院再生の確実な成就という一連の行程をたどりました。最も困難であったのは医師の確保でした。当院に医師を派遣していた長崎大学が、平成18年前後に医師総引き揚げを決め、数年の間に常勤医師46人のうち40人が引き揚げました。このため、私は就任当初から医師確保に全力を尽くしてきましたが、九州大学、福岡大学、産業医科大学などから、平成31年4月までに常勤医師48人、非常勤医師76人を招聘することができました。

最終的には、田川地域の皆様をはじめ、市議会、田川地域の医療関係者、市長、市職員など、多くの皆様の温かなご理解とご指導、そして、何よりも田川市立病院全職員の一体となった粘り強い取り組みにより、平成28年度に、田川市立病院の再生を達成することができました。

田川市立病院は、いまや福岡県内でもかなりレベルの高い地域中核病院に成長しています。

田川市立病院がさらに発展できますよう、市民の皆様の今後とも変わらないご指導とご支援をお願いして、退任のあいさつとさせていただきます。



## 就任のあいさつ

こうえ しゅんじ  
鴻江 俊治

この度、二場公人市長から田川市病院事業管理者を拝命しました。過去6年間の同市立病院長の経験をいかし、経営に尽力したいと存じます。

経営を進める基本的考え方として、近江商人の行動哲学である「三方よし」、すなわち「売り手よし、買い手よし、世間よし」を手本にしたいと存じます。病院の都合だけで行動するのはもってのほか、患者さんが満足する医療を提供し、それが田川の地域医療に貢献しなければなりません。自治体病院の務めとして当たり前のことですが、三方が納得する運営は容易ではありません。そのため、買い

手である患者さん、世間である田川の住民とその代表である市町村議会の議員、そして売り手である病院・市職員・市長、これらの皆様の意見・要望に耳を傾け、理解と協力を得るための話し合いを持つ機会を積極的に持ち、三方のバランスを最良の状態に保ちたいと思います。

現在、当院が直面している課題は以下のとおりです。

1. 田川の地域包括ケアシステムを作り上げる上で基幹病院としての役割を果たす。
2. 田川医療圏の地域医療構想に適した病床の再編と不足する医療の充実：需要と供給、そして近隣医療機関との調整をはかる。
3. 田川地域の再生・発展のために貢献できる医療提供を提供する：小児・周産期医療、救急医療、在宅・緩和医療、災害医療など
4. 医療の質を維持・向上するための優秀な人材を確保する：医師、看護師、薬剤師など

田川市立病院の理念である「田川の医療を守る」ため、職員一同、全力を尽くします。よろしくお願い申し上げます。